

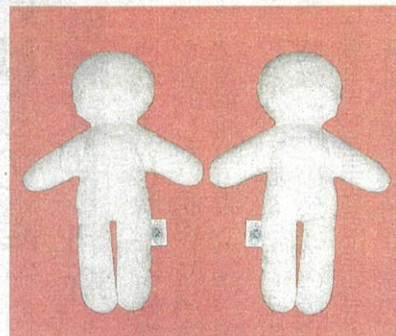
子どもたちを支援する奉仕団体「宇都宮キワニスクラブ」が17日、宇都宮市に発足する。キワニスクラブは約100年前に米国・デトロイトで設立され、世界82カ国で活動を展開する奉仕団体。国内には35団体あり、北関東での設立は初めて。17日に

設立総会を開き、会員ら約40人で船出する。会長にはフリーアナウンサーで県公安委員長の白井佳子さんが就任する。布製の人形「キワニスドール」を手作りし、入院中の子どもたちに贈り勇気づける活動を中心に実施していく。(山崎貴徳)

## 子どもたちの未来 明るく



顔や服などが描かれたキワニスドール。病児を支えるほか、治療の説明で使われるという。下は無地のキワニスドール(国際キワニス日本地区提供)



キワニスクラブはライオンズクラブ、ロータリークラブとともに世界三大奉仕団体と呼ばれている。会員は世界の約7千クラブで計約19万人。キワニスは、皆一緒に集まることの意味の米国先住民の言葉に由来している。国内では1964年に東京都でキワニスクラブが発足。現在は各地に35クラブ

### あす設立、病児支援へ

# 「キワニス」奉仕団体 宇都宮に

あり、子どもへの奉仕活動に特化して、各クラブごとに活動を展開している。

「宇都宮」の設立のきっかけは昨春秋。国際キワニス日本地区の伊藤一実事務総長が、かつて県警本部長を務めた縁から、本県でのクラブ設立を白井さんに打診した。今年5月から準備を進めていたという。

宇都宮の活動の中心はキワニスドールの作製。白地の木綿生地をポリエステル綿を詰めた人形で、身長40センチ、重さ50グラムと規格が決まっており、顔や服などを自由に描ける。子どもたちに癒やしや安心感を与え、医師の治療の説明にも用いられる。オーストラリアで誕生し、キワニスクラブが世界で広めている。活動は人形作りのほか、

月一回例会を開き情報交換する。有識者をゲストに迎えた講話のほか、イベント開催も検討していく。

会員を募集中で、県内に在住または勤務する個人や県内に拠点を置く法人が対象。入会金は1万円、年会費は個人3万6千円、法人5万円。年会費が1万2千円のサポーターも募集する。設立発起人でもある白井さんは「子どもたちの未来が明るくなるようお手伝いしていきたい」と話している。宇都宮キワニスクラブ事務局028・612・3800(平日のみ)。

下野新聞

しもつけ